

第1問

次の文章は、2013年に出版された「被災地から問う この国のかたち」（イースト新書 玄侑宗久、和合亮一、赤坂憲雄）の第二章 溶融する原発周辺地域の市町村 玄侑宗久 の一部である。この文章を読んで著者の考えをまとめ、あなたの意見と合わせて400～600字で述べなさい。

許されない20キロ圏「牛」の殺処分

それから非常に気になっておりますのは、20キロ圏内の家畜の処分についてです。商品価値がなくなってしまったであろうという見方は、飼い主たちもわかっているのです。しかし、だからといって殺処分というのは、畜産に生きてきた人間にとってはちょっとあり得ないやり方です。その辺の事情は、口蹄疫とかBSEのときとは違うのですね。あのときは、放っておけば拡散する、被害が広がるということがありましたから、泣く泣く納得して埋設処分にしたわけです。

しかし、今回はなぜ殺さなければいけないのかといいますと、農林水産省の話ですと、「内部被曝しているであろうから」ということなんですね。こういう判断を許してしまうと、福島県民に対する同様の眼差しを認めてしまうことになる。つまり、福島県民に差別が起こるとすれば、内部被曝しているであろうという、これが最も大きなベースになると思うんです。内部被曝していると何が起こるのか。何がいけないのか。そういう検証が何もなされないまま、被曝しているであろうから殺すということを認めてしまっただけでは絶対にいけないと思います。

福島県には、赤べこという玩具があります。牛が生活を支えるというか、家族同然の存在としていたのですね。また、牛は虚空蔵（こくうぞう）さん、虚空蔵菩薩のお使いだとも言われていまして、虚空蔵尊を祀っている柳津の円蔵寺さんとか、福島市の黒岩の満願寺さんとかには、撫（な）で牛というのがいます。牛をみんなが撫でるものですから、石とかブロンズでできているのですが、それがつるつるなんですね。そんなふうに、特に牛が敬愛されている地域なんです。まあ、牛に限らず、豚、鶏もいますけれども、とりわけあの地域は動物が多いですね。

驚いたことに、ガチョウやダチョウまでいます。ダチョウですよ。犬猫などペットの数も並みじゃないなと思いましたがけれども、ペットはNPO法人なんかの手伝って助けて、除染してオーケーだということになったわけです。ところが牛はなぜい

けないのか。放射性セシウムを浴びた草を食べている可能性があるという。「でも、小屋の中にいたし、干し草は震災前のものです」といっても、細かいことは知らないという感じで、聞いてくれないのが現状です。

2011年5月12日に、殺処分という方針が出されました。それまでは放射性廃棄物として扱っていたので、処分保留だったのです。殺処分というのは、筋弛緩剤を打つんですね。獣医さんたちのストレスも甚大です。獣医さんたちだってそんなことをしたくはないのです。彼らの仕事は牛たちを生かすことでしょう。それが、筋弛緩剤を打った後で、腐敗防止のために消石灰をかけて、ブルーシートで覆って、そのまま放置するんですね。獣医さんだけでなく、何より畜産業をやる人間にとっては、そんなことを認めたら、俺は子どもに何を教育すればいいんだということになる。言ってみれば、畜産にかかわる人間に踏み絵を迫っているようなものです。それができるようなら畜産などできない、というくらい酷いことですよね。

## 第2問

ヒトには、ほぼ24時間の周期を持つ生理現象がみられ、その仕組みには、外界の環境変化に直接生体が反応して生じる外因性のものと、元々生体の機能として備わった内因性のものがある。

下の図は、ヒトの睡眠リズムの観察記録を示したもので、横軸には1日の時間帯、縦軸には観察経過日数を示す。また横軸に表記した黒線は、睡眠時間帯を示し、黒線以外は目覚めている（覚醒している）時間帯である。

この観察では、被験者は温度などの環境条件が一定の部屋に入り、はじめの7日間は22時に消灯、6時に点灯する明暗条件の下におかれている。8日目からは、部屋が常に暗い恒常暗条件の下におかれ、図に示すような睡眠時間帯の変化が現れる。

ヒトの睡眠リズムについて、この図から読み取れることに限り、200～300字で解答しなさい。

